

Camponotus barbaricus

Emery, 1905

西地中海にすむ内気で主に夜行性の大型種で、成長はゆっくり始まりますが、しっかり暖かくすると巨大なコロニーに育ちます。



写真：Jonghyun Park, CC BY 4.0

ひと目でわかる情報



巣の温度
25–30 °C
巣の中



巣の湿度
40–60 %
巣の中



休眠
12–18 °C
11月–2月



結婚飛行
6月–8月
暑い日, 穏やかな天気



働きアリ
6–12 mm
大型働きアリは最大16 mm



女王
16–18 mm
女王は1匹

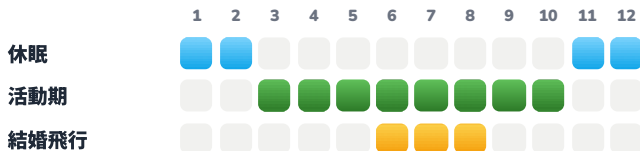


コロニーの規模
働きアリ10,000匹規模
成長速度：速い



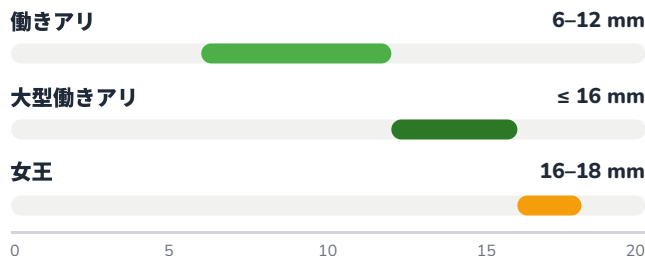
脱走リスク
中程度
アウトワールドに脱走防止の対策をしましょう

1年をひと目で



月は温帯ヨーロッパと地中海地域の目安です。正確な日は天気で決まるため、お住まいの地域では飛行が早まったり遅れたりすることがあります。

同じ縮尺での大きさ



飼育の早見表

食べ物

砂糖

昆虫

おすすめの巣

- Ytongの巣
- アクリル製の巣
- 自然再現型のセットアップ

この評価の理由

- ✓ 完全閉鎖型：最初の働きアリが現れるまで、女王に餌は不要です
- ⚠ 好奇心が強い働きアリなので、アウトワールドに脱走防止の対策をしましょう
- ⚠ コロニーが巨大になるため、広げられる余裕が必要です

飼育者からのメモ

ヒント

巣は片側だけ温めましょう。あるコロニーは室温では何年も小さいままでしたが、ヒートマットを加えたところ成長が加速しました。卵、若い幼虫、蛹はそれぞれ違う場所を選ぶので、暖かい端と少し涼しい隅を両方作るのがいちばんです。

注意

なめらかなガラスや薄いコーティングだけに頼らないでください。働きアリは垂直なガラスに登り、逆さまにも歩き、ある飼育日誌ではPTFEスプレーの上をそのまま歩いて越えていました。蓋はすき間なくぴったり閉め、餌やりは試験管の中ではなくアウトワールドで行いましょう。試験管を開けると、一部の働きアリが飛び出して行方不明になります。